

決勝 浦添商業一校成学園女子 後半、右サイドを攻めてシュートを決める浦添商業の宮里真帆=1日、三重県のサオリーナ (大城直也撮影)



決勝 浦添商業一校成学園女子 後半、守備をかわしてシュートを決める浦添商業の我那覇

我那覇 示感存在の要守の好

○：パス回しも果敢な1対1でも攻めることができ、我那覇の存在がこの日も大きかった。 当人は「シュートミスや粘った守備の最後を守り切れなかった」と敗因を語るが、宮里真帆と伊良部結生とともに優秀選手賞に選ばれるほど、本大会でも秀でた能力を発揮。浦添商業を準優勝に導いた立役者の一人だった。 大会では攻撃の起点となるセンターや守備裏のおどり、両サイドからのシュートなどポジジョンにとらわれない活躍で、接戦を戦い抜くチームの原動力となった。 港川小時代は全国準優勝、神森中では県内止まり、浦商では準優勝と全国大会は無冠に終わったが、「春の全国選抜準優勝した浦添と浦商、コザのメンバーが集う団体では、なにがなんでも優勝を狙う」と話し、高校最後の挑戦へ気持ちを切り替えた。



宮里、痛み乗り越え奮起

ヒドイン

度(ヒドイン)の宮里真帆だった。 「決勝までみんなに世話になりっぱなしで、もう最後だから頑張りました」。 高(ヒドイン)い瞬間発力と1対1に強いその技術で、一度捕まえたら離さない佼成の守備を振り切(ヒドイン)り、ゴールネットを揺らし続けた。 1年の頃からレギュラー入りし、活躍していた。役者の多い浦添商業のエースの一人だが、全国総体前からの腰痛に悩まされていた。 つかんだ後半に自身の集大成を懸けた。

成を懸けた。 ポストの伊良部結生在中継に、相手守備をパスと足でかき乱したわずかな隙間に体をねじ込み得点。さらに右サイドの池間夏希をおとりに、右サイドに回り込むでシュート。「自分が皆以上に働かなくては」と、ルパワーを発揮していった。 玉城晴美監督はその活躍を喜ぶ一方、「真帆が最初から全力でいけたら」と、巡り合わせの難しさに少し声を落とした。 それでも宮里は試合後、赤い目で笑い、前を向いた。「新チームの最初は県内でも勝てず、目標も全国優勝ではなく全国出場に落ちた時期もあった。でも努力を続け、初めて県総体で優勝を勝ち取り、九州も1位で、ここまで来られた。試合前もぶきけ合って緊張をほぐす良い仲間がいたからです」と駆け上がった。 一年を笑顔で締めくくった。

最後まで諦めず

(嘉陽拓也)